

平成30年度 第3回東京都相談支援従事者研修検討会 議事録【要旨】

日時 平成30年7月6日(金) 10時30分から12時まで
会場 心身障害者福祉センター 12階会議室
出席者 秋元委員、池田委員、北川委員、佐藤委員、杉田委員、塚田委員、中島委員、花形委員、藤井委員、吉澤委員、
傍聴 C I L昭島 吉澤氏(国研修受講) 他4名
欠席者 堤委員
事務局 東京都心身障害者福祉センター 4名

1 開会

事務局	<ul style="list-style-type: none">資料確認次第資料1 平成30年度国研修受講者一覧資料2 国研修資料(抜粋)資料3 相談支援従事者研修標準カリキュラム(案)資料4 国研修受講報告
-----	---

2 国研修について

事務局	<ul style="list-style-type: none">今回の検討会議事録(要旨)は、ホームページ公開対象である。また、傍聴者がいることを了解していただきたい。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none">次第の内容で議事を進める。相談支援従事者指導者養成研修(以下「国研修」という。)の全体の報告を花形委員および事務局、初任者研修については杉田委員、現任研修は吉澤委員、専門コース別研修は北川委員、研修運営については事務局より、それぞれ報告を願いたい。その後、質疑応答や各チームでの検討の時間をつくりたいので協力してほしい。事務局に資料2の説明を願いたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none">資料2は、国研修の一部を抜粋したもの。すでに国立リハビリテーションセンターのホームページでも公開されている内容である。国研修のプログラムと講師が記載されているもの、専門官の制度説明の抜粋、新しい初任者研修及び現任研修に関する講義資料の抜粋を、資料としてまとめた。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none">資料2については参考資料として使用していただきながら、各委員より、5分程度で報告をお願いしたい。
花形委員	<ul style="list-style-type: none">国研修の全体構造としては、初任者研修については前半の2日間、現任研修は3日目に取り扱われた。専門コース別研修については、国研修の中でふれられた部分はなかった。(以下、資料4に沿って報告)カリキュラムの時間数が伸びることに対して団体からの要望があり、告示がいつ出されるか未定であるという説明があった。都の検討会としては、時間が伸びたとしても受講して役に立つ、質の高い研修づくりを目指して、予定どおり進めていけばよい、と考えている。

杉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修については、講義部分が1日目、モデル研修の提示が2日目にあった。 ・講義については、現在3日間のものが2日間に凝縮されるので、目的をはっきりさせて準備をしないといけないと感じた。 ・講義の中で、利用者中心の相談、権利擁護などが強調されていた。 ・演習については、実務と連動させてあり、これから受講者が取り組む相談支援の入口であること、研修だけで相談支援専門員に必要なすべてを伝えるのは困難である、と示された。 ・また、すでに5年～10年障害者支援等を経験している人たちであり、基本的な事柄は学習していることが前提という内容であった。研修を組み立てる側としては、受講者が自ら学ぶ環境づくりが重要と感じた。 ・事前学習をして、講義で学び、演習で真似てみて、自分で実務でやってみて、また研修で振り返るような連続性とストーリー性をもたせてほしいと強調していた。 ・東京都の研修づくりに関して、初任者研修チームでは次のようなことを話題にしている。 <ul style="list-style-type: none"> ①講義の再構成に少し時間がかかりそう ②演習1日目と2日目は、おおむね現在の都の研修で大丈夫だと思われ、むしろ、「地域課題」を取り扱っている部分を後ろに回して、余裕のあるカリキュラムにできそう。 ③インターバルのあとの演習の組み立てをしっかりとしないと研修の意図が活かされなくなる。 ④インターバルを活かすためにも、ファシリテーターの力量が問われる。カリキュラムをうまく構造化することと、演習の前半は都全体で、後半は地域ブロックで、といった構成も考えるということなのか。
吉澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現任研修については、まず、講義に関しては、初任者研修と比べると、各論、応用的な内容であり、講師の成功例や失敗例などを具体的に伝え、受講者にイメージを持ってもらうようにしてほしいと示された。 ・演習では、まず個別支援があり、インターバルにおいてチームアプローチ、もう一度インターバルにおいてコミュニティーワークを取扱う流れが示された。 ・手法としてはグループスーパービジョンを繰り返す構造になっていた。 ・しかしながら、示された内容には、都からの受講者からは、疑問を持つ意見が出ている。(以下、資料4に沿って報告) ・課題としては、インターバルの取扱いについては、基幹相談支援センターから助言をもらう、等が例示されていたが、都内では基幹や委託事業所がない地域もあり、しっかり考えておかななくてはならない。 ・現在の都の研修カリキュラムを時間調整することで大丈夫そうだと思う。(以下、資料4に沿って報告)

北川委員	<p>(資料4に沿って報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国研修の中で、各都道府県の研修実施状況の資料が示され、参考になった。 昨年度、都内の相談支援専門員に求められるものについてはかなり議論をした。障害者支援の歴史から、相談支援専門員が持つべき価値、技術などについて意見交換した。国研修の内容と大きく違うものではなかった。 地域や立場の違いによる相談支援専門員の役割として、「三層構造」を資料化してきているが、もう少し丁寧に説明をする素材が、国研修の資料にあった。相談支援専門員としての自分の現状とのギャップを確認できるものとなればよい。 キャリアパスが見えるようにするのが今後重要。
事務局	<p>(資料4に沿って報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> 初任者研修についてはインターバルが「実習」として取り扱われているため、カリキュラム上取り入れることは必須であると認識した。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> インターバルのイメージが共有できているのか、気になった。地域の事情が違いそうなので。

3 検討事項

(1) 新カリキュラム準備にあたっての課題

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> 国研修を受講した上で、今後質の高い研修づくりをする際に気になることという視点で発言をお願いしたい。
花形委員	<ul style="list-style-type: none"> 初任者研修については、都の研修で使用しているツール(5Pics ファイブピクチャーズ)が使える。インターバルでも活用できる。
杉田委員	<ul style="list-style-type: none"> 講義の時間短縮は、組み立ててみないとわからない。 インターバルで、学んだことをやってみるわけだが、地域できちんと支える仕組みをどのように作るかが課題。ただやるだけでは、研修の効果が薄くなる。
北川委員	<ul style="list-style-type: none"> 演習指導者養成では、ファシリテーションスキルが大切。かつ、話し合いの促進より、むしろ収束・集約する技術が求められる。ファシリテーションができる人が増えていかないと、都内のスキルが上がっていかない。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> 演習が長くなり、ファシリテーターの力量がさらに求められる研修制度となった。 都の研修では、大変な数のファシリテーターを揃える必要がある。カリキュラムをより一層構造化するほか、検討会や心障センターの枠を超えて、中核人材の育成を準備する必要がある。
藤井委員	<ul style="list-style-type: none"> 初任者研修のインターバルの取扱いは気になる。地域でも事業所でもフォローが難しいのが実情かと思う。 現任研修は、相談支援の実務をしないと受けても意味のない研修となる。逆に実務者にとっては役に立つ研修だろう。 多職種連携をイメージできない受講者(事業者)があると思うので、インターバルが活用できるか心配だし、基幹相談支援センターや協議会に頼れない地域もある。 東京都から、多職種連携への取組強化、研修の受講の際に受講者が地域に戻ってくることを、区市町村に知らせてもらう必要があるのではないかと。 現在の東京都のカリキュラムの「社会資源の開発」とか「地域課題への働きかけ」は、国がいう「コミュニティワーク」につながっている。
吉澤委員	<ul style="list-style-type: none"> インターバル時、宿題に応じる側の課題が大きい。基幹の代わりに区がその役割を果たしているとされているが、受講者にどのように対応できるか。任意の団体

	<p>でも対応できる可能性は作れるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 都の現任研修では、ファシリテーターを少なくする方向で整えてきた。 • 都の現在のカリキュラムでは「チームアプローチ」は取り扱っていない。国の示し方も不十分なので、検討に時間がかかりそうだ。 • スーパービジョンに関しては、冒頭の講義で学んだことと、演習をしながら体験することに不一致も残る。難しいところ。
秋元委員	<ul style="list-style-type: none"> • ファシリテーターの絶対数が足りない。養成をどうするのか。地域差もある。 • 区市町村から推薦をしてもらおうとか、地域で育てていく仕組みと合わせて作らないと、この研修は実施できないと思う。区市町村が協力してくれるのだろうか。 • 行政が持つ場合が多い基幹センターでは、職員が異動する。主任相談支援専門員としての役割を基幹が担えるのか、疑問に思っている。
塚田委員	<ul style="list-style-type: none"> • 新カリキュラムの時間数の長さに対して、厚生労働省に対し、当事者として意見を述べている。 • 基幹センター、自立支援協議会が機能していることなどが前提でカリキュラムが構成されているが、現場はそうではない。 • 現場とのギャップの中で検討会として苦勞もしているし、これから相談支援に関わる人にとってもハードルが高い内容となっており、つらいところ。 • 都の自立支援協議会も、この研修との関連性がほぼないにもかかわらず、研修は地域の協議会を活用することになる矛盾。 • そうはいつでも、東京は、初任者研修も現任研修もカリキュラムを工夫して、折り合いをつけてきている。長くなる演習も、考え方の提示を重ねるなどで工夫して、現実的な研修にしていくということかと思う。
池田委員	<ul style="list-style-type: none"> • 地域でのOJTとは、どのようにして行うのか。自分の地域に置き換えると疑問を持つ。 • 研修モデルを見ると、障害保健福祉圏域の考え方が示されるが、そういったものを都内で機能させるとしたら、働きかけるのはどこなのか。 • 初任者研修のインターバルは、5Picsの活用で実施のイメージができる。実践してくることでさらに理解が深まるだろう。 • 現任研修では、インターバルを活用することで、個別相談支援から地域課題への発想の広がりがしやすくなり、得るものが大きくなるのではないかと。 • 現任研修の中のスーパービジョンの扱いだが、教育的、支持的機能については、初任者研修ではインターバルで地域に戻ったときに必要なもので、カリキュラムの中で押さえておいたほうがよい。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> • 傍聴されている吉澤さん(国研修受講)のご意見も伺いたい
吉澤氏	<ul style="list-style-type: none"> • ファシリテーターの養成というが、相談支援専門員自身がそもそもケア会議の中でファシリテーターを担う者だと思う。例えばホワイトボードに書きながら進めることも、相談する側へのツールなのだということを示さないと、障害者の利益にならない。 • インターバルのところで事例を持ち寄るといえるのは、当事者としては気持ちが悪い。研修の中で議論したことが、本人に戻り、生活が良い方に変わるのが保障されないところで事例が取り扱われることに違和感があると、国研修の会場で意見を述べた。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> • 次回テーマ（新カリキュラム等作成の方向性の確認）を踏まえ、チームで議論の時間としたい。

花形委員	<ul style="list-style-type: none"> ・当初8月までに指導者養成研修と、相談支援専門員の姿についてある程度完成し、その後、「姿チーム」は、初任と現任研修に合流することとなっていた。 ・専門コース別研修について全体で議論する必要があるのではないかと。検討会のこの後の進め方、予定どおりでよいのか。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・花形委員のご意見は、この後のチームごとの話し合いの中で、専門員像チームでも相談してみたい。

(2) 各作業チームにおける新カリキュラム検討上のポイント

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・各チームの話し合いを共有したい。
杉田委員 (初任チーム)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのカリキュラムがある程度使えるのは、演習2日目まで。 ・それ以降の演習、特にインターバルについては、地域でフォローの体制をとってもらわなければならない。その投げかけを、センターからするのかどうするのかわからないが、今年度中に地域に対してしなければならないと思っている。
吉澤委員 (現任チーム)	<ul style="list-style-type: none"> ・とりあえず東京都のスキームがあるので、それを分解して、国から示されている標準カリキュラムに当てはめていく。すると、多分虫食い版ができると思うので、どういう検討が必要なのか明らかにする。 ・インターバルのあり方については、優先度を上げて検討していく必要がある。都レベルで動いていただくような話になると、早めに動くスケジュール感が必要。 ・事例を取り扱うということに関しては、現任研修は、特に事例から地域課題を抽出して、それが地域に返ることはあるが本人に返っていかない可能性も高い。 ・事例提供者にどういう投げかけをしたらよいのかも、詰めていかなければならない。8月の検討会までにチームでの集まりをもって検討したい。
北川委員 (専門員の姿チーム)	<ul style="list-style-type: none"> ・演習指導者養成研修について、とりあえずファシリテーターを育成していかなければならないと思う。ファシリテーターの裾野を広げていくところを、3年をめどに取り組んでいくということで方向性は出した。 ・専門コース別研修については、中身のリストアップは、全国の状況に関する資料が国研修で出されている。 ・ただ、サビ管研修との関係や、東京都ではすでに使える研修が実際にあるとか、地域で行われる専門コース別研修をどう位置付けていくのかを考えていかなければならない。 ・リストアップはそんなに難しいことではないかもしれないが、どこでだれがどうやるのかという枠組みのところでは、難しさがある。都ときちんと相談することと、大平専門官がある程度カリキュラム例を出すということなので、そこも鑑みて考えていく。 ・次回の検討会ですべてやることは難しく、大平専門官から出てきたものも合わせるとすると、すぐに来月に取り組むのは難しいと思った。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・各チーム簡潔にまとめていただいた。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・花形委員から、専門コース別研修の検討についてご指摘を受けたが、相談支援専門員の姿チームのところで話をした。 ・国の大もとの情報が出ないと、走る方向性が定まらないので、専門コース別研修について全体で検討する時期を後半にずらすことは可能だろうか。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマのリストアップはできる。ただし、国が求めているところと、東京都がやろうとしていることにギャップが出てしまうとまずいと思う。そこの整合性をもってやりたい。早計にまとめてしまうと、ずれるのではないかと懸念している。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・大平専門官が専門コース別研修標準カリキュラムを変えたいと発言していたが、来年度には間に合わないかもしれないとも言っていた。 ・サービス管理責任者の任意研修を、専門コース別研修と名称を揃えてきたので、相談支援専門員とサービス管理責任者が同時に受けられるよう例示し、都道府県によってそれをセレクトするなり、それ以上のものを実施するなり、別なものをやっても大丈夫とするのではないかと考えた。今の専門コース別研修のカリキュラムがそのような作りになっている。 ・ただ、今回の制度改正に間に合わないのであれば、国から出るものを待ってから決めるのでは、遅くなって中途半端になると思う。 ・東京都が専門コース別研修を来年度から始められるかどうかは、今の段階では何とも申し上げられないが、まだ実施していない数少ない自治体の中に東京都が入っていることはわかっているので、何らかの形でスタートできるように調整はしていく。 ・どんな内容のものが候補となるのか、あるいは優先していくのかについて、検討会の意見がある状態にしておいて頂ければ有り難い。 ・チームである程度リストアップしたものをもとに、検討会の中で意見を付け加える時間が8月以降は無くなってしまいうのであれば、次回の検討会の中で短時間であっても、取り扱って、まとめて頂くとよいと思った。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、作業チームの方で、テーマのリストアップを大枠で行ってみる。 ・中身の詳細なものではなく羅列になる可能性もあるが、よろしいか。その上で次回議題として入れていくということでしょうか。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の検討内容の確認。東京都が先に走っているものもあれば、逆に足りないものをどう補っていくか、共通理解を持たせようというワードがたくさん出てきた印象がある。 ・それを各エリアにおとしていくことが、東京都は大きな課題になると思う。各チームで話し合いを持っていく中で大きな話題が出たら全体で共有しながら進めていきたい。 ・次回については、専門員の姿のところで専門コース別研修の議題を出した上で、グループで今日出して頂いた課題を踏まえて研修をどうするのか話し合う。 ・グループでの話し合いがメインとなると思うが、全体で共有する時間を8月は持ちたい。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日はこれで閉会とする。ご協力に感謝する。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研修実施に関して、少し報告をする。 ・相談支援従事者現任研修の申込みについて、例年に比べ多い状況。 ・9月5日の講義講師は内諾済み、ファシリテーターについては、50名強の人数で依頼中。

4 閉会